■新しい教科書と指導書も・・

ボランティア貯金寄附金の配分が決定しました

6月末に本年度の登録児童数の報告が届きました。4校（うち2校は3年生までの分校）で353名です。
治安悪化が原因か、400名を越えるとの期待に反して昨年並みにとどまりました。
6月初めに平成12年度郵政省ボランティア貯金寄附金配分66.7万円の決定通知が届きました。
申請額を大幅に下回りましたが、当会自己資金を加えて3名に2冊いきわたる数の教科書が購入できそうです。
ワークブックを除いて教科書は学校に保管され、今後3−4年間大切に使われる予定です。
この郵政省助成の事業には、教師たちの指導書購入や研修への支援も含みます。「先住民族の子供のための教科書等の配備、小学校教師に対する指導技術研修の実施」が事業の正式名称ですが、今後の報告では、「教科書プロジェクト」と略称させていただきます。
7月7日付の現地報告では、すでに1−3年生までの理科の教科書が届き、子どもたちはきれいな観察や実験用挿し絵、写真に目を輝かせているそうです。幼稚園終了を前提とした1年生用教科書についていけない子どもたちのために、
予定になかった補習教材も注文したとの断りもありました。
「教科書4人で1冊」−尾を引く経済危機−という見出しが7月16日付の全国紙にありました。
フィリピンでも公立小学校の教科書は、原則無償配布ですが、国の教育予算不足から父母に負担を求めています。
ビラーン族と異なり、現金収入がある一般の家庭でも、教科書代は家計に重くのしかかっているようです。

（事務局:プロジェクト担当）

■将来コミュニティーの仲間のために働きますか？ −19名のハイスクール・カレッジ奨学生決定 −

昨年度卒業した6名の奨学生のうち、最終的にカレッジに進学を決めたのは5名。ハイスクールは、各コミュニティーから選ばた14名です。今年度は、ハイスクール・カレッジ奨学生は、在校生をあわせて合計48名です。小学校は昨年より10名多い100名の支援を予定しています。
奨学生候補、保護者に対する説明会は、5月22日に実施されました。単にハイスクール卒という資格を得るためでなく、教師やその他の技能者として、コミュニティー開発にたずさわること。そのためには必ずカレッジ（あるいは専門学校）卒業まで勉学を続ける意志の確認が必要です。寮生活のルール遵守、父母の経費分担努力の意思も確認のうえ、契約書が交わされたと、寮母も兼ねるノーマ校長は報告してきました。
初等教育修了者が10%程度のビラーン族にとっては、奨学金によるハイスクール・カレッジ進学は大きな特権です。
卒業までの4年あるいは8年間、全員初志を貫いて欲しいものです。

（事務局・山崎）

—奨 学 金 支 援 に 感 謝—

—1999年度のHANDS／CMB奨学金プログラム会計報告より—

（小学生）

1人2ドル（月額）あて90名分として送った奨学金は、授業料（年間446.00ペソ=約1,160円が払えない子どもの授業料に充当され、学校運営費を支えるとともに、統一試験経費、遠足経費などの全体経費に当てられました。当会支援金は、4小学校運営費全体の15%程度を支えています。

（ハイスクール・カレッジ）

収入合計 474,708ペソ

（内訳）	HANDSからの奨学金	91.7%
	父母からの納入金	3.8%
	家畜販売収益（寮生飼育）	1.0%
	その他	3.5%

収入合計 444,141ペソ

（内訳）	授業料等学校経費	48.9%
	寮食費代	31.3%
	通学費（ジプニー他）	6.4%
	その他	13.4%

※残高 82,531ペソはスララ寮の建設費の一部に充当されました。

（山頂の集落まで水が通じた瞬間）

—水 道 普 及 事 業—

長雨による道路寸断や、担当責任者Fr.ルーイの交通事故などで遅れていたトゥランボン・コミュニティーの簡易水道建設が、6月末にほぼ完成したと写真付メールが7月18日に届きました。当会会員の佐藤さんが代表を務める千葉県にある国際文化交流グループ（ICECK）の皆さんの資金協力によるものです。
医療問題解決の近道は安全な水の確保です。当会発足以来、サムラング、アトゥモロック、モンゴカヨの3ヶ所の水道普及を支援しましたが、今回のICECKによる協力で、CMB支援地域としては4ヶ所になりました。住民の積極的労務提供により、これまで最小限の予算（セメントと水道管購入費）で実施できました。現在キアミでも水源調査が始まっています。

（事務局：山崎）